

2016年7月

- 2日 上野連合自治会役員会
- 3日 第57回豊中市夏季市民少年野球大会開会式
- 5日 豊中市伊丹市グリーンランド議会勉強会 ※
- 6日 文教常任委員会正副委員長会議 ※
- 8日 第56回豊中市老人クラブ大会
- 9日 第59回合唱の夕べ
- 12日 豊中市伊丹市グリーンランド議会 ※
暮らし安心・安全見守りカメラ説明会
- 21日 文教常任委員会正副委員長会議 ※
- 24日 上野連合自治会定例会
- 26日 無所属の会会派視察(神奈川県川崎市)
- 27日 無所属の会会派視察(東京都足立区)
- 30日 前向きサロン(市政報告会)
- 31日 上野まつり



2016年8月

- 1日 総合計画等調査特別委員会 傍聴 ※
- 2日 空港問題調査特別委員会 傍聴 ※
- 4日 緑と食品のリサイクルプラザ
「生ごみ・剪定枝堆肥化機械システム」見学
- 5日 第100回近畿市民派議員交流・学習会
- 6日 豊中まつりごみ収集・分別ボランティア
- 7日 第15回ソニー・IBA 大阪親善交流会
豊中まつりごみ収集・分別ボランティア
- 8日 関西若手議員の会総会・研修会
- 14日～20日 箕面市議会議員選挙応援

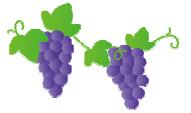


- 16日 関西若手議員の会役員会
- 20日 (仮称)庄内駅前庁舎整備案住民説明会
- 21日 箕面市議会議員選挙開票所見学
- 23日 文教常任委員会視察(大阪市・京都市) ※
- 24日 夏休み学習サポート事業見学
- 25日 全国若手市議会議員の会総会・研修会
- 27日 さくらづか保育園納涼祭
- 30日 議会運営委員会 傍聴 ※



2016年9月

- 2日 豊中市立文化芸術センター内覧会 ※
- 3日 地域子ども教室参加
第11回太鼓亭杯・第7回佐野カップ杯閉会式
上野連合自治会役員会
- 5日 豊中市議会議員団視察(京都市) ※
- 6日 議会運営委員会 傍聴 ※
9月定例会 本会議 ※
- 9日 災害時帰宅困難者体験訓練
- 11日 インターン生合同勉強会
- 12日 文教常任委員会(神原在籍) ※
- 13日 環境福祉常任委員会 傍聴 ※
- 14日 建設水道常任委員会 傍聴 ※
- 15日 総務常任委員会 傍聴 ※
インターン生政策提案発表会
- 16日 無所属の会会派視察(池田市)
- 17日 敬老の集い
- 18日 化学物質アレルギーに関する講演会
- 21日 子ども食堂見学
- 29日 9月定例会 本会議(神原個人質問) ※
- 28日 9月定例会 本会議 ※
- 30日 9月定例会 本会議 ※



収支報告

神原事務所 2016年7月～9月分

2016年7月～9月分

収入	
議員報酬(注1)	¥1,923,000
合計	¥1,923,000
支出	
会派会費	¥30,000
所得税	¥161,679
議員団費	¥9,525
事務所費用へ	¥900,000
生活費	¥821,796
合計	¥1,923,000

(注1) クリーンランド議会報酬含
(注2) イベント参加費・カンパなど
(注3) 勉強会参加費など

収入	
前月繰越残高	¥1,597,623
神原宏一郎議員報酬より	¥900,000
その他(注2)	¥136,000
合計(1)	¥2,633,623
支出	
家屋費(イベント会場含)	¥222,200
光熱費	¥16,789
通信費	¥18,990
印刷費	¥36,229
備品費	¥0
消耗品費	¥6,548
交通費	¥0
人件費	¥423,000
その他(注3)	¥40,700
合計(2)	¥764,456
次月繰越 (1)-(2)	¥1,869,167

インフォメーション

明日への架け橋 (前向きサロン)

日時: 10月29日(土)
午前: 10時～12時
場所: 堀田会館2階第1料理室
(阪急バス豊中高校前から徒歩5分)
参加費: 無料
主催: 前向きひろば
お問合わせは 06-6854-5664 まで

参加者みんなで情報共有・意見交換出来ればと思っています。
気軽にご参加下さい!!

前向きひろば 神原宏一郎 事務所



発行元 無所属の会(神原所属会派)
〒561-0881 豊中市中桜塚 3-1-1 ☎6858-2525(代表)

神原宏一郎事務所(前向きひろば)
〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2階
TEL&FAX: 6854-5664
平日(土・祝日は除く)の10時から17時はスタッフがおります。
young_spiritjp@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/positive_square/
※この通信物は、政務活動費を使用し発行しています。

豊中の未来を描こう!!

かんばらこういちろう
神原宏一郎の
つながり通信
～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～

発行2016年10月

VOL. 120

祝・豊中市
市制施行
80周年

豊中市議会議員
無所属



関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

◆9月定例会・個人質問と答弁◆

①不登校の実態と課題の解決策について～フリースクールとの連携はあるのか?～
Q. 不登校の数が増加傾向にあるが、不登校に対してどのような取り組みをしてきたのか?
A. 中学校に不登校対応の非常勤講師を配置したり、小学校にスクールソーシャルワーカーを配置している。また、担任等による家庭訪問の実施、教室に入れない児童生徒に校内適応指導教室を開設するなど、児童・生徒が登校しやすい環境づくりに努めている。

Q. 不登校児童・生徒の数が増加している要因をどのように分析しているのか?
A. 不登校の要因は様々であり、要因を把握することが難しくなっている状況が増加要因の1つと考えられる。近年の増加は、経済的困窮や家庭の養育力低下が考えられ、南部については、その要因が強いと考えられる。

Q. 不登校の子どもたちにとって、学校と自宅以外の居場所はどこくらいあるのか?
A. 学校と自宅以外の居場所は少年文化館2か所を中心としているが、不登校の要因・背景が多様化・複雑化していることから、全てのニーズに対応することは難しい。

Q. フリースクールなど民間施設に通っている不登校児童・生徒の実態は?
A. フリースクールに対する教育委員会の見解とフリースクールなどの民間団体との連携については、民間施設との連携については、民間施設の実態や状況が多様であることから、一律に連携することは難しい。

②学校給食の食へ残しについて～なぜ、米飯の食へ残しだけが増加しているのか?～
Q. 今年度から米飯を週2回から3回に増やした理由は? 米飯とパンでは栄養面、コスト面で差があるのか?
A. 平成21年に文部科学省から、米飯給食の推進のため、週3回以上を目標とするよう通知があった。また、給食試食会の際等においても、実施回数を増やしてほしいとの声があった。栄養面については、米飯もパンも摂取できる栄養は似ている。パンと米飯のコストについては、パンの方が米飯より若干高くなっている。

Q. 米飯の食へ残しを減らすための対応策は?
A. 米飯には昨年度より従来10%押し麦を入れていたが、今年度からは精白米のみに変更するとともに、栄養価や価格の調整を行っている。現状月1回の炊き込みご飯の回数を増やすことも検討している。

③(仮称)庄内駅前庁舎整備事業について～既存事業との役割分担は明確か?～
Q. (仮称)庄内駅前庁舎整備事業の見直し案の概要は?
A. 2階部分で就労支援と生活困窮者自立支援を、3階部分で一時保育や子育て相談を行う予定。

Q. 既存事業や(仮称)南部コロボセンターに整備される予定の事業とのすみわけは?
A. 地方版ハローワークを新たに実施するほか、南部地域にシルバー人材センターの受付窓口や生活困窮者自立支援事業における相談窓口を設置することで、利用者の拡大や利便性の向上に努めていく。

Q. (仮称)南部コロボセンターでの就労支援事業等の実施方法については、今後、検討していく。

Q. 認可外の一時保育よりも、認可の保育所ニーズの方が高いのではないかと?
A. 待機児童を緊急的に預かるため、一時保育事業を活用して、保育所等へ入園が決まるまでの間、地域の余裕スペースなども活用しながら、定期利用による保育サービスを提供することを検討している。その際の保育料については、割高にならないように、配慮することも検討している。



個人質問の詳細と神原の見解



①不登校の実態と課題の解決策について～新たな受け皿の創設を！！～

下表のとおり、ここ数年、不登校児童・生徒数は増加傾向にあり、近年、深刻さが増えています。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学生	98人	95人	79人	90人	108人
中学生	216人	205人	256人	268人	318人
合計	314人	300人	335人	358人	426人



【課題その① 実態把握が不十分】

- ・市内の不登校児童生徒の生活実態が完全には把握できていない
- ・不登校の子どものうち、**3割弱**しか少年文化館の支援を受けていない

＜神原の提案:担任や専門家を中心としたより積極的なアプローチ＞

特に、自宅にひきこもっている児童生徒の生活実態を徹底した家庭訪問や専門家によるアプローチで把握することで、様々な対応策や長期化の抑止策を講じることが可能になるのではないのでしょうか。

【課題その② 受け皿が不十分】

- ・少年文化館だけでは、全てのニーズに対応することが困難
- ・中学校卒業まで少年文化館を利用していても、卒業後は少年文化館での支援は受けられない
- ・高校入学後に不登校になってしまった生徒が、直接的な支援を受けられる機関がない

＜神原の提案:市としてフリースクールを設置＞

不登校の要因が多様化、複雑化している現状だからこそ、様々なニーズに対応するための多種多様な受け皿が必要なのではないのでしょうか。教育委員会としては、不登校対策は学校復帰が大原則で、学校復帰を前提としないフリースクールなどの民間団体との連携には消極的ですが、不登校の子どもたちに必要なことは、社会的自立であり、学校復帰はその一つの手段だと思います。教育委員会は「民間施設の理念や状況が多様であることから、一律に連携することは難しい」との見解を示しましたが、そうであれば、市としてフリースクールを設置し、市や教育委員会の理念に沿った形で学校と、しっかりと連携できる仕組みを検討すべきです。

先進自治体を参考に～池田市NPO連携教育相談等支援事業「スマイルファクトリー」～

池田市は公設のフリースクールを持ち、積極的に小中学校との連携を図っています。さらに、そのフリースクールでは高校と提携し、通信教育で高校卒業資格もとれるなど、豊中市で課題となっている中学校卒業以後の不登校の子どもたちに直接支援ができる体制を構築されています。

豊中市の少年文化館の意義や必要性は十分にあると思いますが、まだまだ受け皿としては不十分であることは否めず、是非とも公設フリースクールを検討して欲しいものです。



神原宏一郎の個人質問の全文はホームページをご覧ください。
http://www.geocities.jp/positive_square/
皆さまのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。
メールアドレス: young_spiritjp@yahoo.co.jp

②学校給食の食べ残しについて～米飯の食べ残しを問題視！！～

	学校給食の食べ残しの推移			
	副食	パン	米飯	総量
27年度	26.2トン	12.5トン	31.9トン	70.6トン
26年度	40.0トン	16.9トン	27.6トン	84.3トン
25年度	45.3トン	22.9トン	31.3トン	99.5トン

❗ここがポイント

- ①副食、パン、総量ともに食べ残しは減少傾向
- ②米飯の食べ残しだけが増加傾向
- ③今年度から米飯が週2回から3回に変更
- ④今年度も米飯は増加

【疑問その① なぜ、このタイミングで・・・??】

平成21年に文部科学省から、学校における米飯給食は週三回以上を目標とするよう通知があったものの、豊中市ではこれまで週2回を維持し続けてきました。にもかかわらず、学校給食の食べ残しが全体的に減少傾向にあり、パンの食べ残しも減少傾向にある中、唯一、増加傾向にあった米飯を今年度から週2回から3回にしました。なぜ、このような状況下で米飯の回数を増やしたのか疑問です。

【疑問その② 子どもの意見はどれだけ反映されているのか・・・??】

給食を毎日食べる子どもたちの意見を最優先に給食のあり方を考えなければ、中学校給食の利用率が低迷していることと同様に、課題の解決策は導き出せないのではないのでしょうか。

＜神原の提案①:米飯との食べ合せを研究＞

米飯の頻度が増えたことに伴い、お米にあった副食を研究する必要があるのではないのでしょうか。

＜神原の提案②:味付けの米飯を提供＞

米飯はなるべく味をつけて提供したり、各小学校にふりかけ等を支給するなどしてはどうでしょうか。

＜神原の提案③:学校現場での働きかけ＞

現場の先生方に児童がご飯を積極的に摂取するような取組みを求めてみてはどうでしょうか。

今年度、パンの頻度を減らし、米飯の頻度を増やしたことから、最低でもパンよりは米飯の食べ残し量を減らせるように可能な限り尽力すべきです！！

③(仮称)庄内駅前庁舎整備事業について～既存事業との棲み分けを明確に！！～

(仮称)庄内駅前庁舎の整備については、市民や議会からかなり厳しい意見が出され、当初の整備案は見直しを余儀なくされ、2階で就労支援と生活困窮者自立支援を、3階で一時保育や子育て相談を実施する新たな整備案が示されました。より効果的、効率的な事業が実施されるように、いくつか気になる点を提案、指摘しました。

＜神原の提案:病児保育事業の整備＞

3階部分で子育て支援策として、一時保育や子育て相談を行う検討がされていますが、一時保育を整備するならば、市内の南部地域には未整備の病児保育を整備した方がよいのではないのでしょうか。

👉神原の指摘①:既存事業や(仮称)南部コラボセンターでの事業とのすみ分けの明確化

就労支援事業や生活困窮者自立支援事業も、子育て相談事業も、既に実施されている事業であり、加えて、数年後に建設が予定されている(仮称)南部コラボセンターでも実施を検討されています。事業の重複による無駄を生じさせないために、既存事業や(仮称)南部コラボセンターにおいて実施が想定される事業とのすみ分けをきっちりと考えておくべきです！！

👉神原の指摘②:将来の事業転用を見据えた整備

計画されている事業は恒久的に行われるか未定で、将来の事業転用を見据えた整備をすべきです！！